

第50回全国壮年大会 in 東京

人と人のつながり

喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい ローマ12:15

2015年全国壮年大会・壮年会連合総会

8月21日(金曜日)		8月22日(土曜日)		
大田区産業プラザ コンベンションホール	9:00	準備 (120分)	8:45	祈り会・ディボーション(30分)
	9:30		9:15	移動(15分)
	10:00		10:00	特別授業 (90分) 西南学院大学 神学部先生方
	10:30		10:30	
	11:00	受付 (60分)	11:00	分 団 (授業の分かち合い・60分)
	11:30		11:30	
	12:00	開会礼拝(45分)	12:00	移動
	12:30	オリエンテーション(15分)	12:15	派遣礼拝 (45分)
	13:00	主題講演 賀来周一先生 「人と人のつながり」 講演(70分)・質疑(20分)	13:00	後片付け・撤収
	13:30		13:30	
	14:00	議長団席設営(休憩15分)		
	14:30	総会 (180分)		
	14:45			
	17:45	アピールの時間① (60分)		
18:45	テーブル配置換え			
19:15	夕食と交わりの時 (75分)			
20:30	アピールの時間②(30分)			
21:00				
21:30	後片付け・撤収(30分)			

大井バプテスト教会

ひさしぶりに東京で
全国壮年大会が開かれます。

1991年、第26回大会が
常盤台教会で開かれて以来
実に24年ぶりの東京での大会です。
東京に全国から友が集まります。

全国壮年会連合は
全国のバプテストの壮年が
「教会形成を担う」として
「伝道者養成の業」に参与する
ことを旗印に掲げ、
壮年同士の交流をはかる中から
お互いが触発され成長し、
主が示された働きのため助け合い、
祈り合い、献身的に仕えることを
目指しています。

さあ、東京大会においてください
みんなで語り、思いを
分かち合いましょ。

発行人：東京地方壮年連合会長 山田誠一
編集人：中村茂

日本バプテスト連盟 全国壮年会連合

東京地方壮年連合通信

Vol. 6 6

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN 2015年6月20日

「共に歩む」壮年連合として

中野バプテスト教会牧師 青木竜二（あおき りゅうじ）

バプテスト教会の主要な特徴のひとつに、信仰者による契約共同体があります。17世紀、初期のバプテスト教会は教会設立の際、教会契約と呼ばれるものを作成し、神と信徒相互の間で契約を立て、それを結んで教会を組織していきました。バプテスト教会は、各個人が自覚的に信仰告白をし、それに基づいてバプテスマを受けた信仰者(新生者)の集まりであっただけではなく、教会契約という概念を大切にし、一つの契約共同体としての教会を形成し、教会員全員は契約のパートナーとして信仰者としての自覚と責任を持ち、集まったのでした。

初期イギリスバプテストの教会契約は、「共に歩む」という言葉を使用し教会員が新生者の契約共同体の一員あるということの自覚とその確認を目的としていきました。契約には信徒の主体的な信仰生活の実践に関することを記し、律法主義的な意味での契約理解ではなく、神の恵みによって救われた人々が、不従順で、不信仰な状態におちいり、そこにとどまり続けるようなことがないように、人間の側からの誠実な約束を、神及び信徒相互において主体的に喜んで結ぶものでした。教会契約は、一つでも違反したら、即座に罰則規定があるというようなものではなく、常に信仰者の原点に立ち返り、「悔い改めつづけるという決意」そして「共に歩む」ということを互いに取り交わしものなのです。

このバプテスト教会の契約概念は、協力伝道の働きにおいても用いられました。各教会が自分たちの利益のみを目的とするという方向性の下で「共に」進むのではなく、各教会がキリストの肢体の一部として、互いに支え合いながら共に歩いていくことが重要な要素でした。各個教会が王としてのキリストの直接の支配下にあるならば、各個教会はキリストの統治の下にある全ての人々を交わりの中に引き入れることが必要であり、キリストの体の一部となることが必要になるのです。1644年の第

一ロンドン信仰告白の47条にキリストの体にある教会の結合をはっきりと記し、契約という言葉は使用していませんが「共に歩む」という言葉を使い表しています。

「たとい特定の教会が明らかにいくつかの個別の諸団体であっても、各教会は固く結合した共同自治体を構成するのである。彼らはみな唯一の頭であるキリストの下で、共通の信仰をもつ一つの肢体として、一つの共通した規範によって共に歩むのであり、なにかんづく教会のすべて必要な事柄のために協議し、互いに助け合い、便宜をはかるのである。」

壮年連合も協力伝道の働きです。壮年連合のお一人お一人がこの「共に歩む」ということを大切にして、その働きを担っていただけますよう、お祈りしています。今年度は東京地方連合主催での全国壮年大会です。大会に向けて祈りつつ、共に歩んでまいりましょう。

2015年度 地方連合壮年会等代表者会議 報告

大井バプテスト教会 山田誠一（やまだ せいいち）

今年の代表者会議は5/15(金)~16日(土)2日間とも各地方連合の代表者が集う会議として連盟事務所にて行われました。例年であれば初日は神学校推進委員会でありました。今年の神学校推進委員会は全国壮年大会の前日、8/20(木)に大井バプテスト教会にて行われます。

なぜそうなったか？ おそらく審議する議題が多く、各地方連合壮年の代表者との協議を大切に思ったのだろうと思います。

協議したことは通常のこととして、昨年度の活動報告と一般会計・奨学金会計の報告、そして今年度と来年度の活動報告と予算案についてです。また、今年度の神学校献金週間の取組み、来年度の神学校献金目標など壮年会が主体としている働きについても話し合いました。

毎年行われる全国壮年大会、来年は北九州地方連合が担当です。現在、開催する場所について苦慮しているようです。外部の施設を借りるにしろ10万円ぐらいの準備金が必要だし、なかなか宗教活動に一般の施設を貸してくれる所も少ないのです。200人以上収容できて安く貸してくれる所を探すのは大変です。私たち東京もそのことで苦労しました。そこで、毎年色々な所へ巡って行く壮年大会のメリット・デメリットを考えながら今後どのようにしたらいいのかを協議しました。

全国壮年会連合の働きの柱は、伝道者養成と教会形成を担うことです。ワーキンググループからの答申にもあり、開会礼拝で宣教研究所所長の朴 思郁師も語っておられましたが、「献身者を掘り起こし、学びをサポ

ートし、牧師・伝道者として立ち続けるように伴走していくことが必要だ！」 現在全国壮年会連合の主だった働きは神学生奨学金献金の推進だけであり神学校で学んでいる学生を資金的にサポートしていることです。これも大切な働きです。しかし、これからはそれだけでは駄目だという思いがします。せつかく牧師として立っても短期間で辞めていく人が多いのです。なんと 33%にもなるそうです。私たち壮年は今までの働きを大切に、宣研の働きに賛同して牧師として立った者が立ち続けられるように伴走していくことです。

その事を考える議題も提案されました。「伝道者養成への取り組み～点から線へ」 良い考えですが資金的なことで見送られました。しかし、これからじっくりと考える課題だと思いました。

この代表者会議で話し合われた事が元となり、東京での壮年大会での総会で審議されます。全国壮年の皆さまが代議員として参加されます事を願っております。

第 50 回全国壮年大会 in 東京 ご案内とプログラム

8月21日(金)、22日(土)の2日間、全国壮年大会が東京で開催されます。『人と人とのつながり』を大会主題とし、第1日目に賀来周一先生の基調講演があります。第2日目に西南学院大学神学部の先生方による特別授業があります。皆さんふるってご参加ください。

2015

8/21(金) 8/22(土)

大会主題 **人と人とのつながり**

第50回 **全国壮年大会** in 東京

主眼聖句 ローマ人への手紙12章15節
「喜ぶ者と共に喜び、
泣く者と共に泣きなさい」

主眼講演 **賀来周一牧師**
日本福音ルーテル/むさしの教会
キリスト教カウンセリングセンター所長・理事長
「人と人とのつながり」心のケアについて

大会会場
第1日目(8月21日) **大田区産業プラザ** ↑
第2日目(8月22日) **大井バプテスト教会**